

## 「かけはし」51号発行に寄せて

代表 増井

3月からの教室閉鎖からあつという間に半年が過ぎてしまいました。中には、帰国された方やそのまま連絡が取れなくなった学習者さんもありますが、皆さんお元気に過ごされていることを願っています。

パンデミックは私に「今、大切な事は何か」を考える機会となりました。世界的には、地球や国と国との関係、そして身近な暮らしについては、これからどう生きていくべきなのかと。

そして気づいたのは人との出会い、つながりが人間の幸福には欠かせないということです。相手を信頼し助け合うこと、国境を越えた連帯こそが増々大切になります。これからも日本語教室を通じて多文化共生社会の支えになりたいと思います。また、この困難な状況の中で「かけはし」が皆様の努力で発行されることを大変嬉しく思います。

## ぎょうじ いろいろな行事

### こくぶんじ 国分寺まつり

2019年11月4日、気持ちよい秋晴れの中、武蔵国分寺公園で「国分寺まつり」が開催されました。教室からは十数名のスタッフが参加しました。スタッフの中には午前と午後、交代で参加した方もいましたが、9時半の開始から終わりまで一日中参加された方も多くいました。折り紙体験コーナー、国際理解クイズ、手作り雑貨のミニバザーなどを開催し、昼食をとる時間もないぐらい人が集まり、とても忙しかったのですが、



うれしくおもいました。当日販売したバティック（インドネシア・マレーシアのろうけつ染めの布地）で作ったブックカバーは教室の有志の方が寄付してくださり、百個が大好評で完売しました。また、和紙で作ったし

おり人形も百個近く作り、完売しました。10月中旬、織井さんと松方さんのご指導のもと、教室の女性スタッフ十数名が集まり、十個ぐらいの細かいパーツを組み合わせ、手先の器用な方の人形はきれいに出来上がり、そうでない方の人形もそれなりに出来上がり、みなさんでおしゃべりしながら親睦を兼ねて楽しいひとときを過ごしました。

他の行事もそうですが、日本語教室のスタッフはチームワーク抜群で、何事も楽しさに変えてしまう不思議な力を持っています。今回の「国分寺まつり」が国際協会のPRに少しでも貢献できたかな、と思いつつながら家路につきました。（清水）



# 2019国際交流フェスタ

## <スピーチ大会の思い出>

2019年11月17日にリオンホールで国際交流フェスタが開催されました。日本語学習者によるスピーチでは7名が出演し、日本語教室(夜間)からは5名の学習者が参加しました。

司会は昨年日本語教室からスピーチに参加した盧昂さん(中国)で、流暢な日本語で出場者のみなさんを紹介しました。日本語教室(夜間)から出場

した5名の学習者のみなさんはひと月ぐらい前から原稿を書き、スタッフに添削してもらい、2週間前からスピーチの練習を始め



ました。最初は原稿を読むのもたどたどしく、担当のスタッフは少し心配していました。しかし当日になると、5人とも原稿を見ずに堂々と落ち着いて、ユーモアたっぷりにお客様の笑いを誘い、スピーチを立派に成し遂げました。お客様からの大きな拍手をいただき、嬉しそうな笑顔がとても印象的で、学習者さんたちの底力を見た思いがしました。

出場した学習者さんの感想をご紹介します。  
(清水)

### バスネットさん(ネパール人男性)

2019年11月17日に、国分寺市でぼくはスピーチをしました。ぼくは一カ月まえからたくさんれんしゅうしました。そのスピーチは、ぼくの日本ではじめてのスピーチでした。ホールに人がいっぱいいました。ぼくは、そんなに人がたくさんいるとはおもいませんでした。スピーチのとき、ぼくはすこしきんちょうしました。でも、ぼくはぜんぶおぼえていましたから、だいじょうぶでした。スピーチがおわったら、とてもよかったとおもいました。スピーチがおわったあと、コンサートやゲームがありました。とてもたのしかったです。

### るー 盧さん(中国人男性)

秋末初冬の候、年に一度の国分寺市国際協会「国際交流フェスタ」が開かれ、私はスピーチ大会の司会者として参加させていただきました。

ただでさえスピーチが苦手な私は、スピーチを聞いて、アドリブ的な質問をして、場を盛り上げる役割を担うことに正直不安でした。教室スタッフの高居さんの熱意に説得され、これを自分への挑戦だと思って引き受けました。今はやってよかったと思っています。

一部の発表の方の原稿に事前に目を通して、皆の「日本」という国への様々な思いを熱く感じました。故郷と日本の食べ物を比べながら故郷の食生活を紹介する方、日本の育児環境の素晴らしさを感じて事例を通じて自分の体験を話す方、母国のサメと一緒に泳げる人気観光地を熱く語る方…。それぞれの思いを来場のお客様にどううまく伝えるかという課題は、そう簡単ではなかった。

フェスタ当日、前もって到着して、発表の方々と軽く話して、それぞれの話題を質問でなるべく柔らかく展開するように工夫した。スピーチ大会が始まるまでずっと緊張していたが、ステージに上がったからは緊張感が不思議に収まって、高居さんとの即興早口言葉もスムーズに言えました。その時「日本語は私にとってもう100%外国語ではない」、「自然に喋れるようになったんだ」と、自身の日本語がうまくなったことを感じました。その後、自信がついて発表者と冗談を交えたりして、大会を無事に終えました。

一年前、私は発表者として大会に参加させていただいたが、緊張のあまり棒読みしてしまった。協会の皆さんのお陰で、一年後に割と自然にアドリブを振ったり、キャッチボールしたりできるようになって、自分自身の進歩が見えて何よりも嬉しかったです。これからも皆とより一層交流を深めて、日本語力を磨いて、日本社会に溶け込むよう頑張りたいと思う。

# ねんまつ たの かい 年末お楽しみ会

2019年12月18日に毎年恒例の年末お楽しみ会が行われ、学習者・スタッフ・お客さんを合わせて約90名もの人が参加しました。当日、スタッフは早くから集まってごちそうの準備に大わらわでした。また、学習者のみなさんから差し入れがありました。麻婆豆腐、水餃子、麻花、チャーハン、お茶の葉を使ったサラダなど、本場の味ばかりでした。出し物はベトナム語の歌で始まり、東京経済大学合気道部による演武、中国少数民族の踊り、女性グループによるダンス、サクスの演奏などが披露



れました。ビンゴゲームで盛り上がった後、最後に目玉のプレゼント交換がありました。みんなで輪になって音楽に合わせてプレゼントを右の人に回すのですが、さあ本番という時に、音楽が鳴らないという大ハプニングが発生しました。そこでしかたなく、みんなで「もういくつ寝るとお正月♪」と大きな声で歌い始めたところ、なぜか音楽が鳴り始めました。「ストップ！」の合図で自分の手元にあったプレゼントをもらいました。開けてみると、お菓子やかわいいぬいぐるみなどが次々と出てきて歓声が上がりました。あっという間の2時間が過ぎ、みんなで片づけをして「よいお年を！」と言葉を交わしながらお開きとなりました。  
(小田)



# せつぶん 節分



節分は、日本の四季の始まりの日（立春・立夏・立秋・立冬）の前日のことです。節分とは「季節を分ける」ことを意味しています。今の日本では、春が始まる立春（毎年2月4日）の前日を指しています。ここ日本語教室での節分の行事は学習日の1月29日に行われました。悪いものを出して、幸福を入れるという節分の豆まき！教室の黒板には赤い鬼のお面とわしの写真に刺した本物の「ひいらぎ」の木の小枝が素敵に飾られ、各テーブルの上にはお豆が置かれました。十数名の普段真面目に学ぶ学習者さんたちが鬼の面を被り金棒を持ったりして、いかにも怖そうだったり、恥ずかしそうだったり、ユーモアたっぷりに練り歩きました。一方、見ている人たちは「鬼は外、福は内」と大きな声言いながら、鬼さんに豆をぶつけました。厄を払い、幸福を招き入れて生きる力がわいてきたような明るい気分になれた楽しい時間でした。外はまだまだ寒いですが、梅が咲き始めています。  
(富永)

## レイマークさん（フィリピン人男性）

2020年1月29日に日本語教室で節分を行いました。「鬼は外！福は内！」という掛け声を聞いたことがありますが、本当の意味が分かりませんでした。でも、スタッフの方たちのおかげで節分のことを勉強することができました。節分の説明が終わった後、私は鬼マスクをかけ、鬼として教室をぐるりと一周しました。みなさんは「鬼は外！福は内！」と言いながら我々に豆をまきました。鬼だったけど、楽しかったです。

# ひなまつり



2020年2月26日に恒例のひなまつりの行事を行いました。夕方5時半にひな飾り一式が到着すると、社会福祉センターの玄関前で待っていたスタッフが、大中小とりどりの段ボールを台車で3階の和室に運び込みました。

収納してあったひな飾り一式を手分けして取り出し、七段のひな段も手際よく組み立てました。そして飾り方の絵図やスタッフの記憶を頼りにしながら、ワイワイガヤガヤと楽しい共同作業をしました。前半の日本語授業の後、学習者さんたちを中心に和室に移動しました。ひな飾りを初めて身近に見る学習者のみなさんは、興味深く眺め、写真を撮ったりしていました。担当スタッフよりひなまつりについて説明があり、「ひなまつりの歌」の楽譜を見ながら全員で合唱した後、「桜もち」を食べました。例年、桜の葉を食べるとよいのかどうか質問がありますが、桜の葉は食べられません。

ひなまつりの行事は、「日本の文化習慣」を紹介する日本語教室の大切な行事の一つです。後片づけは学習者も一緒に賑やかに行いました。学習者はひなまつりを通して、娘や孫娘のすこやかな成長を願う日本の繊細な文化を感じとってくださったことでしょ。またスタッフは、ひととき王朝文化に思いを馳せることができ、今宵は楽しいひなまつりでした。寄贈してくださった方、保管・運搬をしてくださった方、陰で支える大勢のスタッフのみなさん、ありがとうございました。



(織井)



# とく しゅう 集

## か コロナ禍にあって

今回の特集は、学習者の皆さんにコロナ感染が叫ばれる中で、日々どのように過ごしてきたか、どんな思いをしていたのか、人生における貴重な体験を文章にしてもらいました。そして、各学習者には担当スタッフからメッセージを送っています。

### シェリンさん (バングラデシュ人女性)

わたしは1がつににほんにきました。わたしとかぞくはだいじょうぶです。でも、なくなった人がたくさんいて、かなしいです。ワクチンができるといいです。

おだ (スタッフ)

<シェリンさんはやさしくて礼儀正しい方です。一番最初に練習した漢字は「豚」でした。シェリンさんはイスラム教徒のため、食品に豚が入っていないかどうか確かめるためです。コロナが収まって一緒に買い物に行けるようになるのを楽しみにしています。>

### さい 崔さん (中国人女性)

コロナはもう11カ月も続いている。多くの人の生活はコロナのために大きく変わったと思う。まず、今年の1月、つまり日本に来た直後に中国でコロナは全国的に発生していた。幸せなことに、私は順調に入国した。2月から日本でもコロナが発生した。医者としてコロナは伝染病で深刻化することはわかった。だから、外に出られなくなった。日本の桜の真っ盛りが見られた。次に政府は緊急事態宣言を出し、夫も在宅勤務を始めた。遠い所へは行けないので、家の周りで遊んだ。おいしいラーメンを探して、多摩湖を見た。でも花火大会とオリンピックもキャン

セルになった。残念だった。コロナの感染拡大の影響で、日本の美しい風景を見たり、おいしい食べ物などを食べたりする機会を失った。いつかいろいろ経験するつもりだ。今、コロナの影響が以前より少なくなり、正常化した。日本語教室に参加したり、着物体験に参加したりした。高尾山に行って紅葉が見たい。コロナから自分を守りながら、社会に溶けこんで日本の文化を体験するつもりだ。とにかく、コロナのため、医者<sup>いしや</sup>の役割がわかった。自分の力は小さいが、患者の痛みをいやすことに尽力したい。

よしこし  
吉越 (スタッフ)

＜崔さんは医師です。聡明・明朗で勉強熱心です。＞

ズオンさん (ベトナム人男性)

コロナのあいだに、たくさんつらいことがありました。けいざいがわるくなって、みんなのせいかわるくなりました。おかねもないし、しごとにもいけなかったです。じぶんのうちは、みんなしごとがなかったです。コロナのびょうきはまだなおせません。ひとがしんでしまいました。

やすだ  
安田 (スタッフ)

＜まだ一年しか在日経験がないのに、本当によく頑張っています。前向きで頑張り屋のズオン君です。がんばれ～。＞

メンディさん (スペイン人男性)

2019年12月31日、中国は新型コロナウイルス性肺炎による感染症を報告しています。1月16日、日本でコロナウイルスの最初の症例が報告されました。2月から、日本をはじめ世界各国でウイルスの拡散を抑えるための規制が始まりました、私の会社は4月と5月は完全に閉鎖することを決めたので、その間私は在宅勤務をしていました。こんなに長い間孤立していたのは人生で初めてで、士気を維持するのが非常に難しかったです。私は KIA のスタッフを含む友人や家族と電話でよく話しました。そしてそれは私をとて助けました。これまでのところ、日本はウイルスの蔓延を抑えるために非常にうまくやっていますが、

人々が自信過剰になると状況はすぐに悪化する可能性があるのではないかと心配しています。研究者がすぐにワクチンを見つけることを願っています。その間、私たちがお互いにサポートすることは、士気を維持するために非常に重要です。

かじわら  
梶原 (スタッフ)

＜メンディさんはコロナ禍にあって、家族を心配している家族思いの人です。また最近の IT テクノロジーを紹介してくれる師でもあります。＞

りん  
林さん (台湾人女性)

人間の目で見えないコロナの怖さを初めて体験しました。外国人として自分の国に帰れない、そんな悲しさをすごく感じました。家族と友達に飛行機で3、4時間かかって会えるのは簡単だと思いました。しかし、今は会うことができなくなりました。これは従来から想像できないことです。これから誰かと会うことを大切にして、後悔しないようにします。

しみず  
清水 (スタッフ)

＜林さんとは前から教室でよく知っていましたが、二人で組むのは先月からです。林さんは礼儀正しく真面目で、穏やかな優しいお人柄は皆さんから好かれています。二人での授業はとても楽しく、次回の授業は何をしようかとワクワクしながら教材を選んでいきます。＞

ご  
呉さん (中国人女性)

外出できない時でも、時間の流れや世界の変化は一秒も止まっていない。あつという間に大半が過ぎてしまった奇妙な 2020 年。

中国の感染者数の急増に落ち着けない日々は昨日のこのように覚えていたが、あれは2月のことだった。楽しみにしていた大学院生活は5月にやっとオンラインの形で始まった。通学する必要がなく、パジャマでも受講できるからオンライン授業は気楽で決して嫌いではないが、大学に普通に通える日常が懐かしくなってきた。10月に入って、ようやく対面授業が可能となり、Zoom で半年ぐらいいっしょに聴講してきた

クラスメイトと会うことができた。対面授業は発言しやすく、もっと集中できると個人的には感じた。

一人でいることが好きな自分でも自粛期間中に急に友達と会いたくなったり、オンラインは便利な面があっても、限界を感じるところは多い。人はなぜ集まる必要があるのか、コロナ禍にあって一番考えさせられたことだ。

うえだ  
植田 (スタッフ)

<呉さんは中国南京市の出身、教室は9月からオンラインで学習中。日本語を専攻のきっかけは、岩井俊二監督の映画 Love Letter とか。誰か一緒に卓球する人いませんか。>

ロホマンさん (バングラデシュ人男性)

COVID-19は私にとって悪夢です。愛する人を亡くした方々を思うと胸が痛みます。COVID-19は私たちに精神的にも経済的にも影響を与え、私たちがどれほど脆弱であるかを教えてください。しかし、私は暗闇がすぐに終わると確信しています。私たちは強くなくてはならず、互いに協力しなければなりません。ぜひ一緒に夢を大きく持ちましょう。すぐに、私たちは思う存分空気を吸えるようになるのです。それまでは全力で頑張らしましょう。お互いのために神様に祈りましょう。私たちは人間です。私たちは必ず勝ちます。

まるやま  
丸山 (スタッフ)

<ロホマンさんの日本語や日本文化を学ぼうとする真摯な態度に敬服し、私自身も励まされています。>

エミリオさん (アメリカ人男性)

きんきゅうじたいが始まって以来、誰も外に行かなくなりました。もちろんぼくもレストランやカラオケに行きたかったけど遠慮しました。でも、ロングヘアーのかみがたはぼくに似合わなくても、とこやに行けない。だからバリカンを買うことにしました。

きんきゅうじたい中に何回も自分でかみをカット

して、何回も失敗してしまいました。後ろは特に難しかったです。左手でかがみをもち、右手でバリカンを使いました。2週間前、生徒たちがヘアカットをほめてくれました。本当に嬉しかったです。なお、ヘアカットは無料になりました。それでもちょっと悲しい。実は、ぼくはどこやさんにかみをカットしてもらいながらゲーム、文化、映画、恋愛関係の話をよくしていました。とこやさんと友だちになっていたのです。また会って、いろんな話をしたいです。

ひろた  
廣田 (スタッフ)

<エミリオさんは、大学で文学を専攻し、日本の近代文学に惹かれ、夏目漱石、芥川龍之介、田山花袋などの小説(英訳文)を読み、また、三島由紀夫、大江健三郎などの現代作品にも出会い、日本の生活に触れたいと、4年前に来日しました。

日本語を習得し、翻訳文では表せない日本語の情緒を理解すると、日本文学に対する更なる興味が深まるのではないかと期待しています。>

ラジさん (パキスタン人男性)

私は今年の3月に日本にきました。これは私の2018年からの3回目のりようです。ほう間のりゆうはおくさんに会って日本をりようすることでした。3月のおわりごろパキスタンへかえるつもりでした。でもコロナのかんせんかくだいのため、ひこうきがとばなくなりました。

私はパキスタンでツアーガイドのしごとをしています。でも、コロナが世界中のかんこうさんぎょうにわるいえいきょうをおよぼしました。

今、私はかんこうさんぎょうがふつうにもどるまで日本にすんではたらきたいです。でも、日本語をまなばなければ、すんで、はたらくことはかんたんではないとわかりました。だから、私は日本語をならうことにきめました。

日本語のべんきょうはおもしろいですが、かんじはかんたんではありません。でも、がんばります。

いちかわ  
市川 (スタッフ)

<10月末に教室で、ラジさんに会ってまだ2回しか勉強を  
担当していません。しかし、彼のおだやかで、はば広い魅力が  
感じられて、一緒に勉強がすぐに楽しくなりました。

初めて、奥さんとの日本旅行で、お国に帰ることができな  
くなり、日本に留まるはめになってしまったとは。そして、いま  
日本での生活にご夫婦で奮闘されているようです。まさに、  
世界を覆ったこのコロナ禍の影響をもろに受けていらっしゃる  
ますね。

日本語の勉強もとても熱心です。パンデミックの波が早く  
落ち着き、お二人の生活がとりもどせますように。また、これを  
機会に「パキスタン・日本」の友好、観光を広めてほしいで  
す。>

ジオさん (ベトナム人女性)

今年、コロナが流行っているので、人々の生活や  
仕事に大きな影響を与えている。私も例外ではない。  
4月に大学の入学式があったのに、コロナのせいでキ  
ャンセルされた。そして、大学では対面授業ではなく、  
オンライン授業を行っている。今まで、ずっと自分  
の部屋で授業を受け、生活をしている。外にあまり出  
かけなくなったので、つまらないと思う。また、大学  
で友達ができないので、寂しかった。一番大事なものは、  
出かける時にはマスクを忘れずに、そして帰ってからは  
手洗いをきちんとして、今や慣例になった。  
時々嫌な感じがあったが、自分と周りの人の安全のため  
にしなければならない。しかし、コロナのおかげで、  
自分の時間が前より多くなっ  
て、好きなことをやり、おいし  
い料理をよく作り、運動もす  
るようになった。こんなコロナの状況下では、悪影響  
も多くあるが、人によって、それは自分のチャンスに  
もなるのではないだろうか考える。



しばた  
柴田 (スタッフ)

<午前2時、みんながまだ寝静まっている時間、ジオさん  
の朝は始まります。新聞配達です。いい時ばかりではありません  
。雨の日も雪の日も強風にさらされる日も、黙々と配りま

す。そして今春からは大学生として勉強に励んでいます。どん  
なに大変な中でも明るく元気に頑張ります。いつもジョークを  
わす  
忘れません。にっこり笑うジオさんスマイルは周囲を明るくしま  
す。

そういう私もジオさんの姿に励まされている一人です。>

スマントさん (インド人男性)

COVID-19 パンデミックのために、おおくのにんた  
いがひつようとされています。

私は、まいにち、あさ6じにおきます。そして、7  
じから8じまでヨガをしています。いまは、じぶんの  
へやで、8じはんからごご6じまで IT エンジニアと  
してしごとをしています。しごとがおわったあと、7  
じからにほんごをべんきょうして、ごご8じからばん  
ごはんをたべます。それから、インドにいるかぞくに  
でんわをして、10じはんにはねるようになっています。

たにおか  
谷岡 (スタッフ)

<スマントさんは、2年前にインドから来られて、大手企業に  
勤めるIT技術者です。日本語の学習にも熱心に取り組んで  
おられ、穏やかで、気品を感じさせる紳士 (gentleman) で  
す。毎日、インドにいる家族に電話をしているなんて、素晴らし  
いですね。>

り  
李さん (中国人男性)

2020年はもともと幸せな年だと思えます。ダブル  
20がありますので、良さそうですね。そして、東京  
オリンピックも今年に開く予定でした。個人のほうで  
は、息子は今年満3歳になりましたから、幼稚園に行け  
る予定でした。私が日本で働いているうちに、彼も  
幼稚園のほかの子供と一緒に日本語が勉強できると  
思いました。ただ、以上のすべてはコロナのせいで変  
わりました。感染が心配ですので、今まで息子はずっ  
と家で育っています。近くに同齡の子供を知らないの  
で、悩んでいます。でも、いいところもあると思いま  
す。仕事のほうで、只今テレワークできます。通勤時間  
が省けるので、楽になりました。コロナが早く収束し  
てほしいです。有効なワクチンを待っています。



ふくだ  
福田 (スタッフ)

＜李さんは中国大連出身のIT技術者です。＞

家族思いの優しい方です。9月中旬からビジネス

会話を中心にオンライン授業を行っていますが、とても熱心に学習されていて理解も早いです。今後は他の学習者の方ともオンラインで交流できる機会があればと思います＞



＜コロナ対策を講じて開催された教室風景＞



## 【スタッフ】



えんどう  
遠藤さん



「コロナ禍と日本語学習」

最初のオンライン授業は、今年の2月末のことでした。学習者は二人。呂さんと、趙さん。ともに、母語は中国語、レベルはN2。そのきっかけは、趙さんの会社で、感染を防ぐための在宅勤務が始まったことでした。日本語教室は3月から休みにになりました。しかし、二人とメールのやりとりをして「学習は続けてこう！」ということで、3月は3回のオンライン授業をしました。その後、呂さんは勤務先が会津に変わったため、3月末に退室。新年度の4月からは、趙さんとのオンライン授業を続けてきています。最初はSkypeで、5月からZoomになりました。

オンライン授業は、対面授業に比べると、足りないことや、できないことが少なくありません。しかし、予定に合わせて授業時間を調整できることに加えて、移動時間を節約できることが、オンライン方式の大きな利点かなと感じます。また、音声教材を使うことができるのも助かっています。Wordも便利に使っています。その日の授業のポイントを書いたWordを画面で共有して、授業でもいろいろ書きこみをします。加えて、メールをやりとりすることも増えたのですが、返信ではメール文の添削もしています。

オンライン授業というもう一つの授業方法を手にすることができたことは、貴重な収穫だと思っています。いずれにしても、役員のみなさまには、ほんとうにお疲れさまです。

## ☆スタッフ募集

私たちと一緒に外国人の方に日本語を教えてください。ボランティアを募集しています。ご興味のある方は以下にご連絡ください。

国分寺市国際協会事務局

〒185-0034

国分寺市光町1-46-8 ひかりプラザ1

TEL:042-505-6132 FAX:042-505-61

E-Mail:kia@mrj.biglobe.ne.jp



受け付け  
受付

am9:00～pm. 5:00 (月曜～金曜)

日本語でお困りの外国人の方

国分寺市国際協会日本語教室では、外国人の方が日本語を学ぶように日本語教室を開催しています。

開催日：水曜日 (19時～21時) 金曜日 (10時～12時)

※会場等お問い合わせは、上記事務局まで。